

あいち農産物生産流通レポート

平成20年3月号

情報サロン		
・食育推進ボランティア活動報告会を開催しました	-----	1
(食育推進課)		
地域トピックス		
・「東海フラワーショウ2008」及び「花半島事業	-----	2
フラワーフェスティバルin東海」に3万8千人が来場		
(知多農林水産事務所)		
東日本情報		
・卸売市場法改正による市場流通の変化	-----	3
(東京事務所)		
西日本情報		
・あいちの優れた農産物を世界へ！	-----	5
～あいちの農産物輸出促進会議が発足しました～		
(園芸農産課)		
フラワーページ		
・東京市場における年明けから2月中旬までの販売	-----	7
状況と3月の見通し	(東京事務所)	
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・名古屋・東京市場における青果物の3月の見通し	-----	9
花き		
・切花・鉢花の3月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2007年12月)	-----	25
関連指数	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

食育推進ボランティア活動報告会を開催しました ～各地域で食育の普及活動が進められています～

平成20年2月14日に県立農業大学校で、「平成19年度愛知県食育推進ボランティア活動報告会」を開催しました。

報告会では、地域において食育の普及に取り組んだ食育推進ボランティアのうち5名の方から、活動事例の発表がありました。

また、発表後には、金城学院大学の森圭子教授が活動事例について総括し、食育を進めていくために何が必要であるかについて、ボランティア活動への期待も込めて助言をいただきました。



森教授による活動事例の総括

【事例内容紹介】

「子供の食育」オリーブSKD 宮崎いつこさん
小学生を対象に実施している食育紙芝居、
弁当箱、エプロンシアターを実演。

「JAの食農教育活動について」JA豊橋 鈴木裕子さん
地域グループへの出前講座、農業体験、親子料理教室
などを通じた食農教育活動について紹介。

「Let's みんなでたのしく食育体験」
とにとクラブ 梶本富美子さん
大型ショッピングセンターで実施した食育
イベントについて紹介。

「本物の味を子どもたちに伝えたい
～とうふ作りと大豆の栽培を通じて～」
農村輝きネットあいち 大島千恵子さん
本物の味を伝えたいとの思いから始まった
小学校でのとうふ作りについて紹介。

「みかわ市民生協における食育の取り組み」みかわ市民生協 天野真知子さん
生協が取り組む「食と健康」の活動内容について紹介。



オリーブSKDさんの
エプロンシアター実演



とにとクラブさんの事例発表

参考；食育推進ボランティアは、
県民の方に健康で豊かな日常生活を送っていただくために、バランスのよい食生活の実践をすすめたり、郷土料理の伝承をしていただくなど、地域において食育の普及のために活動されている方です。平成20年1月末現在、437名の方が県に登録しています。



啓発資料の展示コーナー

「東海フラワーショウ2008」及び
「花半島事業フラワーフェスティバルin東海」に3万8千人が来場

平成20年1月26日(土)・27日(日)、東海市民体育館で「東海フラワーショウ2008」及び「花半島事業フラワーフェスティバルin東海」が同時に開催され、2日間で38,000人の来場者があり盛況でした。

「東海フラワーショウ」は、東海フラワーショウ2008実行委員会が主催したもので、今回で16回目を迎えました。

当日は、東海市内の洋らん生産者や農業センター等により、展示や生け花展、フラワーコンテストと併せて、園芸相談や即売会が行われました。

華やかな会場で特に混雑していたのが即売会で、市価より安い鉢物や切花、球根などが、飛びように売られていました。

今回初開催の「花半島事業フラワーフェスティバル」は、JAあいち知多花半島事業構想の集大成として、東海地域花半島事業フラワーフェスティバル実行委員会が主催したものです。

フェスティバルでは、知多半島の5市5町及び知多ソフィア観光ネットワークが展示ブースを設け、それぞれの市町等で栽培される花きを来場者に紹介していました。今後、フェスティバルは、5市5町の持ち回りで開催されることとなり、20年度は知多郡阿久比町で開催が予定されています。

JAあいち知多花半島事業構想

花半島事業推進本部(構成:JAあいち知多、知多ソフィア観光ネットワーク、知多半島5市5町、愛知県)が中心となり、「知多半島をより一層快適な空間にしていくために、四季を通じて花の咲き乱れる地域を目指し、同時に愛知県有数の花の産地である知多半島のイメージアップとこれらを通じて、知多半島の農業振興・地域振興に寄与する」ことを目的に知多半島5市5町及びJAの助成により運営



会場の様子



阿久比町のブース

卸売市場法改正による市場流通の変化

在京流通行政連絡会で、「卸売市場流通の変化と今後の対応方向」と題して、中田哲也氏（全農園芸農産部園芸流通課）による講演がありましたので、その内容を紹介します。

○卸売市場法改正のこれまでの流れ

平成16年6月に卸売市場法が改正され、商物一致原則の規制緩和、卸売業者の事業活動に関する規制緩和（注1）、卸売市場再編の促進、仲卸業者の財務基準の明確化などが規定された。また委託手数料は、開設者は一定の関与をすべきであると規定され、5年間の経過措置中に国の示した下記の4つの例（注2）をもとに定めることとされた。

このような状況の中、国内の卸売市場に大きな影響を与える東京都中央卸売市場の動向が注目されていた。

東京都中央卸売市場の開設者である東京都は、委託手数料について学識経験者、生産者、卸売業界、都会議員で組織する中央卸売市場取引業務運営協議会で検討を重ねた結果、今年1月30日に同委員会から、委託手数料を届出制とすることとした。今後、これを受けた改正条例案は、都議会の承認、農林水産省の認可を経て、平成21年1月に施行される見込みとなった。

○市場流通を取り巻く現状

市場外流通や直接取引の拡大により、市場経由率は低下し、卸売会社や仲卸業者の利益率が低下している。改正卸売市場法（H16）の施行により、委託集荷の減少と買付集荷の増加が、卸売会社の格差が拡大し、「勝ち組」「負け組」にはっきり分けつつある。

○今後の卸売市場はどうか

①市場による産地の選別及び産地の囲い込み

卸売会社は産地から単に集荷する会社からの脱却を加速しつつあり、商品に付随する産地サービス（販促、物流等）に加え、産地の規模やその将来性（生産基盤、担い手等）を含めた検討を行うものと考えられる。一方、契約栽培等産地への積極的な提案など、産地の囲い込みが進むもことも考えられる。

②産地による市場の選別と産地の直販への取り組み

産地は生産者手取り額の安定化に向け、より有利な条件での取引に流れる。

③卸売市場再編の促進

卸売市場の手数料の弾力化は、経営悪化市場の廃業・再編を進展させるものと考えられる。他方では、卸と仲卸の経営・機能統合や大型市場を核とした卸売市場の系列化・ネットワーク化が進展するものと考えられる。

表 手数料に対する各方面の考え方

	開設者	卸売会社	学識経験者	生産者団体
①卸売手数料	届け出制へ (開設者関与少)	引き下げ反対 (開設者関与大)	引き下げ反対 (卸の自由度を高める)	引き下げ反対 (開設者関与大)
②出荷奨励金	産地の影響大なので慎重に検討する必要あり	役割は終えた対価性のある制度へ	産地が求める根拠はないが産地の苦しい経営も理解できる	実需者の要望に答えるためにも必要
③完納奨励金	安定供給のため制度を継続	代払い制度を維持するため必要	残るだろうとの見方	迅速かつ確実な決裁システムが残るなら理解

○東京都の条例改正へ向けた主な内容（中央卸売市場取引業務運営協議会取りまとめ）

①委託手数料の事前届出制

- ・ 取引実態に応じ、自らの判断で委託手数料を設定できる制度とする。
- ・ 委託手数料の設定は、細分化を避けるため、現行の野菜、果実などの区分別とする。
- ・ 開設者による変更命令権を規定する。

②出荷奨励金の開設者による承認制

- ・ 現行どおり卸売業者の事前申請にもとづき都が承認する。
- ・ 物流コストの削減や品質管理などに取り組みむ出荷者へ支出する。

③完納奨励金の開設者による承認制

- ・ 統一したルールにより、出荷者への代金決済を確実にできるよう、本制度を運営する。

○今後の流れとまとめ

開設者の委託手数料率の変更命令権や各社の委託手数料率の開示などから当面は現行手数料をベースとし、平成24年3月までの3年間は固定で、平成24年4月以降は、届け出再審査を経て新たな手数料率になると予想される。その際に大きな変革が起こるという見方もある。

注1) 卸売業者の事業活動に関する規制緩和

- ・ 直荷引き（生産者→仲卸業者）
- ・ 第三者販売（卸売業者→小売業者等）
- ・ 手数料の弾力化
(委託手数料：届出制、出荷奨励金：承認制完納奨励金：承認制)

注2) 経過措置中の国が示した手数料弾力化の例

- ア 卸売業者の届け出制
- イ 開設者が上限を定めた上の届出制
- ウ 開設者が上限を定めた上の承認制
- エ 開設者が利用率を設定

あいちの優れた農産物を世界へ！

～ あいちの農産物輸出促進会議が発足しました～

本県は、高品質で安全安心な愛知県産農産物の輸出拡大に向けて、JA愛知中央会、JAあいち経済連等農業団体や地域の輸出促進団体（以下「地域協議会」という）、貿易支援団体及び国や県関係機関等からなる「あいちの農産物輸出促進会議」（以下「輸出促進会議」という。）を発足させ、去る2月14日（木）に初会合を開き、今後の活動、支援策等について協議、意見交換を行いました。

1 これまでの取組経過

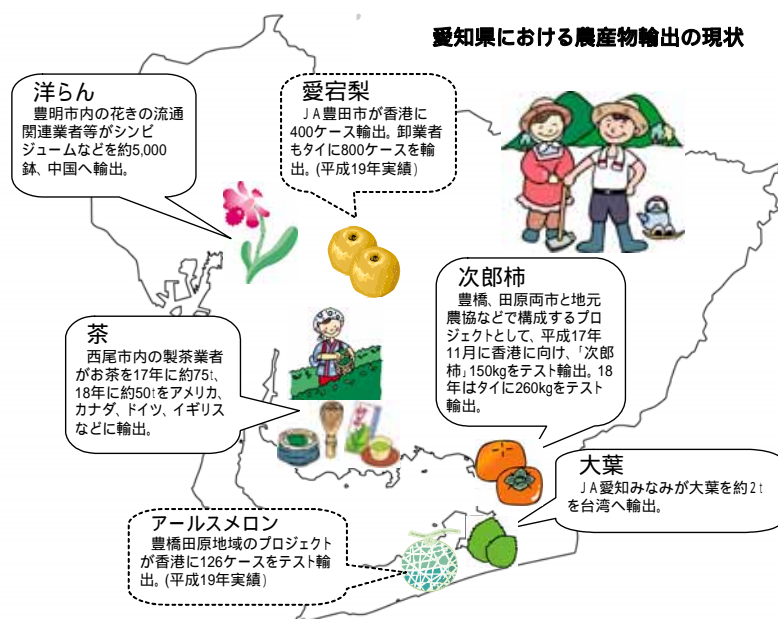
本県の農産物輸出の取組は、実は今回が初めてではありません。平成2年から平成10年にかけて、ロサンゼルス、シンガポール、ロンドン、上海の百貨店やスーパーマーケットで展示即売事業を実施しました。当時は経済状況や輸送事情等の問題もあり、生鮮農産物の継続した輸出取引には至りませんでした。

しかし、その後の世界的な日本食ブームやアジアの経済発展を背景に、3、4年ほど前から全国的に輸出に対する関心が高まっています。本県もセントレアの開港や愛知万博を契機として、恵まれた地域条件を生かした「攻めの農業」により産地の活性化を図ろうと輸出促進に再度挑戦することとしました。

平成18年2月には、県は、JAあいち経済連や輸出事業者等と「あいちの農産物輸出推進研究会」（以下「研究会」という。）を設置し、本県産農産物の輸出可能性の検討や情報の収集提供、県産農産物のテスト輸出を支援するための手引きやパンフレットの作成配布を行ってきました。

2 本県の農産物輸出の現況

こうした取組の成果もあり、県内産地の関心も次第に高まっており、従来から輸出されていた緑茶はもちろん、洋らん、大葉もほぼ定着してきており、更に豊橋市の「次郎柿」、田原市の「アールスメロン」、豊田市の「愛宕梨」などのテスト輸出が行われるようになっていきました。また、豊橋市・田原市、豊田市及び、豊川市の3つの地域では輸出促進のための地域協議会が発足しています。



3 あいちの農産物輸出促進会議の開催

こうした状況の中で、研究会から「輸出には個々の産地、事業者の努力はもちろんだが、国や県の行政機関、支援団体等がそれぞれのネットワークを生かして支援していくことが必要である。また、輸出を目指す産地、事業者が相互に連携協力しながら、それぞれの取組をさらに発展させていくことがさらなる輸出の拡大定着につながるのでは」との提言もいただきました。こうしたことなどから、本県は、各関係機関・団体や地域協議会等のご賛同を得て、関係者一体となって輸出を推進するための「あいちの農産物輸出促進会議」を発足することとしました。

平成20年2月14日に行われた初会合では、事務局から輸出促進会議発足までの経過報告が行われたのち、輸出促進会議の活動について検討され、今後は年2回程度の会議を開催し、情報の収集・共有化、輸出戦略の確立支援、各種事業との連携などを進めて行くことを確認しました。また、国、県及び独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）からそれぞれ農産物輸出促進のための支援策について情報提供がありました。



輸出促進会議であいさつする永田農林水産部長

あいちの農産物輸出促進会議の概要

構成員

県中央会、県経済連、県農業振興基金、地域協議会、有識者(輸出事業者等)、ジェトロ、東海農政局、名古屋植物防疫所、県関係機関

所管事項

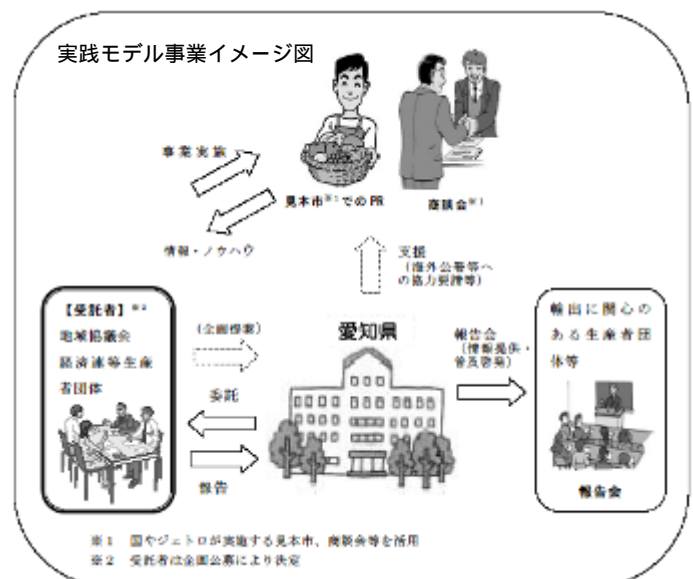
農産物輸出促進に関する次の事項

- ・情報の収集・分析及び共有化に関すること
 - ・普及啓発及び広報に関すること
 - ・方策の検討及び実施に関すること
 - ・関係機関・団体等との連携強化に関すること
- など

4 輸出促進のための県の支援策について

輸出促進会議の発足とともに、県ではさらに県産農産物の輸出を加速化するために、平成20年度は新たに「あいちの農産物輸出実践モデル事業」を実施します。

この事業は、県内産地の輸出意欲を高め、輸出の定着、拡大を図るため、県と輸出に取り組む産地（地域協議会等）とが協働して、海外見本市への出展や展示販売等の取組を実施し、その成果を広く紹介するものです。



東京市場における年明けから2月中旬までの販売状況と3月の見通し

花き流通情報連絡協議会[構成：都道府県、県連、全農県本部]より、年明けから2月中旬までの販売状況と3月の見通しについて、情報の提供がありましたので紹介します。

＜市場からの情報提供＞

① 2月中旬までの販売状況

冬場に入り低温と重油高を反映して、露地ものを中心に入荷量が少ない中、セリの中心は上物と裾物で、中間ものは少なかった。年内は業務需要が活発で高単価となった。しかし、年明けは業務需要が減り、入荷が少なく高騰しているキクを除き、全体的に荷動きはにぶくなっている。バレンタインデー需要のため、赤色のバラは高騰したが、バラ全体では、輸入品もあり品薄感は小さかった。2月中旬から切花の平均価格はやっと前年を上回るようになった。

国内産の入荷が全体的に少なかったこともあり、輸入のキク、カーネーションなどが大幅に増加した。

② 3月の見通し

ひな祭り、卒業式、送別会など需要期に入り、価格は上昇するものの、例年と比べると全体的には抑えられる。

3月は、ブライダルフェアが多いので、少量ながらも多種多様な品目が動く。

切花は、キクを中心に3月中旬に出荷ピークを迎えるが、バラについては西日本の産地を中心に出荷ピークが4月にずれ込むと見込まれる。

＜産地情報＞

京浜市場花き協議会資料より

品目	産地	作型	主要品種	作付面積 ha (前年比)	3月出荷見込み		作柄及び概況
					出荷総数 千本 (前年比)	京浜地域向 千本 (前年比)	
					輪ギク	栃木	
	福岡	周年	神馬(74%) 雪姫(11%) 精興の秋(9%) 美吉野(6%)	16 (100%)	4,680 (100%)	1,600 (100%)	2月の冷え込みにより、出荷量も少なくやや遅れがみられる。現在、日量1,500ケース前後の出荷で色物は少なく白中心の出荷となっている。彼岸については前年並の出荷を見込んでいる。
スプレーギク	栃木	施設加温	オランダ系 精興園 他	72 (98%)	1,650 (97%)	825 (97%)	生育は概ね良好だが、ボリューム不足の傾向である。一部、保温性の低い施設は休作となっている。
バラ	静岡	施設加温	ローテローゼ テレサ エスタ アパランチ	45 (90%)	1,750 (90%)	1,350 (90%)	下旬に向け徐々に出荷量は増加する見込み。冷え込み、日照不足の影響から2月は少なく、その分3月にずれ込む。
	群馬	施設	ローテローゼ フレス ティネケ パレオ	19.2 (100%)	880 (100%)	640 (100%)	生育・品質は概ね順調となっている。加温温度はしっかり確保している。省エネのため施設の閉める時間をやや早めているため、柔らかめの傾向にある。
カーネーション	千葉	周年	スタンダード スプレー ナデシコ系	25.8 (98%)	4,250 (102%)	1,922 (102%)	重油高騰のため加温温度を下げた影響から、生育が停滞している。気温の上昇とともに生育が一気に進むため、出荷量が増加すると見込まれている。

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名 古 屋 市 中 央 卸 売 市 場 (品 目 : ふ き)

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円 / kg)		前年の主な他産地 (上位 3 産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
19年実績	211	198 (94%)	256	257	岐阜 (5 %) 徳島 (1 %)
20年見通し	220	-	260	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
10月の出始めの時期は品質が良くなかったが、年明け以降は回復した。 寒さに強い品目であり、2月以降の促成ものは高品質のものが安定して入荷している。3月も同様の傾向が続くであろう。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並みの見込み。			生鮮ものは香りがよくみずみずしいが、調理に手間がかかるため、若い世代の消費が減少している。生鮮ものの良さをPRしたい。 また、副次的な品目であるため、1度に使いきれぬ少量での売り方を工夫することも必要ではないか。 気温が上昇してくると傷みやすくなり、消費者が敬遠するので、注意してほしい。		

東 京 都 中 央 卸 売 市 場 (品 目 : ふ き)

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円 / kg)		前年の主な他産地 (上位 3 産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
19年実績	438	398 (91%)	292	282	群馬 (8 %) 静岡 (0 %)
20年見通し	420	-	290	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
本県産が入荷の大部分を占める。2月から促成ものに切り替わり、3月は入荷が本格化する。現状、例年より入荷量は少ないが、品質には問題なく、堅調に推移している。入荷量については今後徐々に増加する見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。			愛知産のふきは、春を感じさせる野菜とし欠かせない商材である。調理済みの惣菜を購入する消費者も多いが、量販店からの需要もあり、家庭での調理方法PRも重要となる。 促成ふきは柔らかく傷みが出やすいので、出荷にあたっては切り口の処理など品質保持には特に注意して、安定的な数量の出荷をお願いしたい。		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		愛知県 平成17年 = 100				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年 9月	100.6	110.3	115.7	103.3	102.6
	10月	100.9	110.4	119.4	103.1	102.2
	11月	100.7	100.9	104.6	104.0	101.8
	12月	100.9	104.5	99.7	104.4	102.5
愛 知 県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8	103.9
	19年 9月	100.9	107.6	120.2	101.8	102.3
	10月	101.0	108.3	116.7	100.6	102.5
	11月	100.7	97.4	102.5	103.6	100.9
	12月	100.7	100.6	98.4	102.2	102.3

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
18年平均	18年平均	102.9	97.8	108.2	120.6	99.0
	19年 8月	97.4	95.6	100.6	121.8	100.4
	9月	99.9	94.0	107.6	102.3	101.2
	10月	100.7	89.8	114.1	112.2	100.2
	11月	94.7	91.5	94.0	113.2	99.2
12月	98.0	92.5	106.9	98.1	101.7	

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一産、 「コヒカリ」 以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年 9月	2,251	146	211	684	442	260	158	290	210	527	639	217	-
10月	2,247	146	164	733	506	254	177	285	197	517	690	219	-
11月	2,210	131	124	624	310	252	128	298	199	560	720	190	553
12月	2,203	135	108	652	433	273	127	290	196	561	774	219	491
品目 単位 年月	みかん	グレフ イル ブ ツ	オレ ンジ	いちご	バナ ナ	キ ウ フ イル ツ	緑(せ 茶ん 茶)	カ ー ネ シ ョ ン	き く	パ ラ	豚(口 肉 ス)	牛(口 肉 ス)	ま ぐ ろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g					
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年 9月	1,200	342	475	-	246	677	608	158	183	315	220	798	501
10月	672	325	492	-	251	683	587	164	175	317	219	773	518
11月	457	366	482	-	247	699	594	157	167	317	225	781	488
12月	429	421	482	184	247	698	605	167	172	335	219	777	487

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 417
平成20年3月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417